

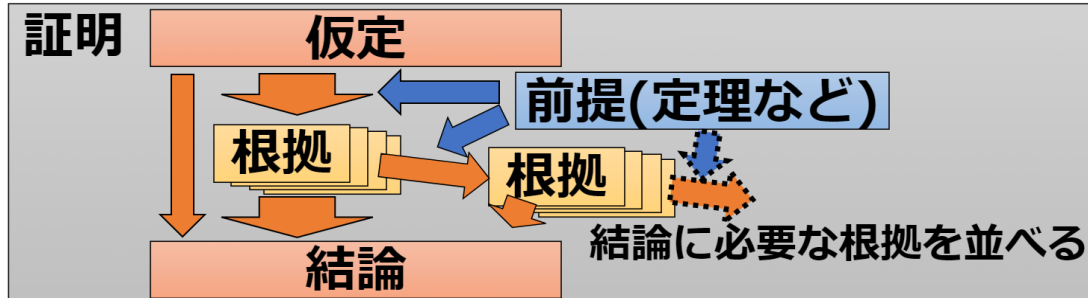
仮定・結論と証明

ことがら

・ことがら「○○ならば ×× (である)」

- 「ならば」の前の○○の部分を**仮定**、「ならば」の後の××の部分を**結論**という

・**証明**: 仮定から結論が正しいことを主張するための一連の論理的な手続き



「定理」は「三角形と四角形」で学習

<例>

・ $\triangle ABC$ が正三角形ならば $AB=AC$

・ n が偶数ならば $n \times n$ は偶数

・ $a \times b = 0$ ならば $a = 0$ または $b = 0$

— 仮定
— 結論

<確認問題>

次のことがらについて、
仮定と結論を答えよ。

- (1) a と b が整数ならば
 $(a + b)$ は整数である。
- (2) $\triangle ABC \equiv \triangle DEF$ ならば
 $\angle A = \angle D$ である。
- (3) x が 12 の倍数ならば
 x は 6 の倍数である。
- (4) a が偶数ならば
 $(a + 6)$ は偶数である。
- (5) $\triangle ABC$ について、
 $\angle A = \angle B = 60^\circ$ ならば
 $\triangle ABC$ は正三角形である。

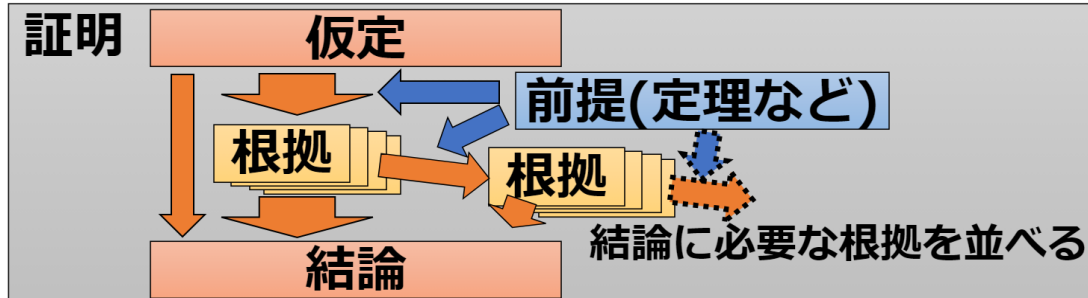
仮定・結論と証明

ことがら

・ことがら「○○ならば ×× (である)」

- 「ならば」の前の○○の部分を**仮定**、「ならば」の後の××の部分を**結論**という

・**証明**: 仮定から結論が正しいことを主張するための一連の論理的な手続き



「定理」は「三角形と四角形」で学習

- <例>
- ・ $\triangle ABC$ が正三角形ならば $AB=AC$
 - ・ n が偶数ならば $n \times n$ は偶数
 - ・ $a \times b = 0$ ならば $a = 0$ または $b = 0$

— 仮定
— 結論

<確認問題>

次のことがらについて、
仮定と結論を答えよ。

(1) a と b が整数ならば
 $(a + b)$ は整数である。

(2) $\triangle ABC \equiv \triangle DEF$ ならば
 $\angle A = \angle D$ である。

(3) x が 12 の倍数ならば
 x は 6 の倍数である。

(4) a が偶数ならば
 $(a + 6)$ は偶数である。

(5) $\triangle ABC$ について、
 $\angle A = \angle B = 60^\circ$ ならば
 $\triangle ABC$ は正三角形である。

(1)
(仮定) a と b が整数
(結論) $(a + b)$ は整数

(2)
(仮定) $\triangle ABC \equiv \triangle DEF$
(結論) $\angle A = \angle D$

(3)
(仮定) x が 12 の倍数
(結論) x は 6 の倍数

(4)
(仮定) a が偶数
(結論) $(a + 6)$ は偶数

(5)
(仮定) $\angle A = \angle B = 60^\circ$
(結論) $\triangle ABC$ は正三角形